

文化庁月報

特集

世界へ向けた 現代舞台芸術の発信

4 〔巻頭言〕
現代舞台芸術の発展に向けて
遠藤 啓 (文化庁文化部長)

6 〔論文〕
アーツプランの五年間
川本雄三

8 新国立劇場開場五年目を迎えて思うこと
海老澤敏

10 〔解説〕
芸術創造推進事業(アーツプラン21)について
文化庁文化部長芸術文化課
コラム 芸術創造特別支援団体の紹介

13 現代舞台芸術の発信拠点 新国立劇場
文化庁文化部長芸術文化課
インタビュー
新国立劇場バレエ団 石井潤さん、川村真樹さんに聞く
コラム 新国立劇場オペラ研修所研修生の感想

今月の表紙
新国立劇場
オペラ劇場

新国立劇場スポットライト / 45
九月の国立劇場 / 46
芸術文化振興基金ニュース / 47
9月号予告 / 編集後記 / 48

ACA NEWS

- 文化財の新指定(美術工芸品関係).....33
- 登録美術品の新たな登録について.....39
- 平成13年度(第5回)
文化庁メディア芸術祭について.....40

イベント案内

- 東京国立近代美術館フィルムセンター
1930年代日本の印刷デザイン
— 大衆社会における伝達 —41
- 京都国立近代美術館
京都の工芸 1945-2000年.....42
- 国立国際美術館
企画展 田中信太郎 — 饒舌と沈黙のカノン —43
- 東京国立博物館
特集陳列
東京国立博物館コレクションの保存と修理.....44

連載

- Cross Road18
鶴賀若狭掾さん(新内節太夫)
新内仲三郎さん(新内節三味線方)
- ことばの万華鏡②.....水谷 修・22
人間関係か、明確な事実情報か
- IT時代のコンテンツの創造・発信と著作権⑤.....23
実効性の確保、円滑な利用の促進について②
～教育の充実について～
- まちに活きるミュージアム⑥.....東京都江戸東京博物館・24
来館者の立場に立った展示をめざして
— 東京都江戸東京博物館の常設展示の改善 —
- キーワード事典・アートマネジメント⑥.....小林真理・26
文化施設の機能としてのアウトリーチ(芸術文化普及活動)
- 保存修理の社会学⑤.....賀古唯義・28
活きた芝居小屋への再生
- 日本の伝統美と技を守る人々— 選定保存技術保持者編⑤.....30
小林章男さん・小林平一さん
- 文化の現場から⑥
天然記念物のこれからを求めて.....花井正光・32

◆論文◆

新国立劇場開場五年目を迎えて思うこと

(財)新国立劇場運営財団副理事長
海老澤敏



暑い夏の日々が終わると、オペラやバレエ、そして演劇の新しいシーズンが始まってくる。日本で初めて誕生した西洋的なパフォーマンス・アーツの殿堂たる新国立劇場のオープニングが、先頃、中国の地で急逝された作曲家團伊玖磨氏の新作オペラ「建・TAKERU」によっておこなわれてから、この秋でちょうど四シーズンを消化して、五年目が始められる。

私事になって恐縮であるが、平成五年に財団法人第二国立劇場運営財団の設立に伴って、理事の末席に加えられるという光栄に浴したが、これは私が長年に亘って、音楽学として音楽評論、それに音楽教育に携わり、楽壇にも様々な発言をおこなってきたためであつたらう。い

舞踊、演劇の三部門を主導される芸術監督のいづれもが交替され、前任者がしつらえられた軌道を尊重されつつ、その上で独自の方向も打ち出されている。

思えば、日本の伝統的芸能の殿堂である国立劇場が、すでに幾ダケイド（十年期）も前に活動を開始していたのに、私たち日本人の第二の芸術活動の領域として、すでに一世紀を越える歴史を歩みつけてきた西洋的パフォーマンス・アーツの殿堂づくりには、意外なほどの時間が必要であつた。

この間、オペラ・グループの活動、舞踊団体の努力、そして演劇界の活躍も多種多様であり、ようやく創り上げられたこの殿堂、そしてそれを運営する組織の在り方に対して、関係者各位の思いはまことに複雑であつたと、私は付度せざるを得ない。そうした、熱い思いを新国立劇場の芸術活動に公平無私な形で注ぎ込み、それを形象化しつつ、観客、聴衆が心の底から求める新しいパフォーマンス・アーツを創造するべきなのではなからうか。

世界へ向けた現代舞台芸術の発信



新国立劇場2000/2001シーズンオペラ ジャコモ・プッチーニ「蝶々夫人」 指揮：アントン・グアダーニョ 演出：栗山昌良 新国立劇場オペラ劇場(2001年6月) 撮影：三枝近志

新国立劇場の在り方も、また、特別と言わなければならないまい。今、現在、オペラ、舞踊、演劇の三つのパフォーマンス・アーツの部門を一つの国立劇場に集し、その成果を江湖に問うような組織が、どの位世界に存在するものであるか。おそらくは、ほとんどないと言つてよいだろう。これを日本風な折衷案、難な解決案と語るのはたやすいことだ。だが、こうした組織の形を選び取った以上、いわゆる個々別々な三本立ての寄り合い世帯ではなく、およそ欧米でさえ実

現しえなかつた新しいパフォーマンス・アーツの拠点の創出に向けての努力が重ねられるべきではなからうか。

それぞれの部門が、そして三部門全体が国内、国外を問わず、私たち自身の主張を明快に発言し、たとえば、国内的には上演活動の拠点たる場を提供し、また国際的には、ただ、単なる人材の輸入にとどまらず、むしろ対等の立場で舞台芸術創造を展開し、かつそれに基づいた情報の発信基地とすべきであらう。

情報発信基地とはなんなのか。それは、世界中の舞台芸術の情報が歴史的にも現実的にも集約的なかたちで蒐集され、新国立劇場の公演活動ばかりでなく、全国の舞台芸術活動の進展にも役立てられるのがその一つの在り方であらう。さらに、日本という東洋にあつてはとりわけユニークな二つの「国楽」を持ち、確固としてその活動を押し進めている私たち日本人が創造する舞台芸術を海外に向けて堂々と輸出し、そのために必要不可欠な活動を積極的におこなうことである。四年目を迎えたオペラ研修所は、今年

度から、新しく考え貫かれた研修プログラムによる歌手たちのトレーニングによる教育システムを始動させた。その成果は数年後にはあらたな形で私たちの前に立ち現れることだろう。

時あたかも、二年後からのオペラ芸術監督就任含みで、芸術参与として、オーストリア人トーマス・ノヴォフラツキ氏の就任が発表された。氏と語ってみて、その確乎とした芸術監督哲学に心打たれた。氏は二〇〇三年〜二〇〇四年シーズンから、オペラ劇場永遠のレパートリーとして人類永遠のテーマ「男」、「女」、そして「支配者」を象徴するオペラを予定するという、これは、美しい声音や楽音によって、私たちに視覚化し、可聴化してくるのだ、と少なくとも私には理解できた。

新国立劇場が、たとえばオペラによって、人類永遠の問題に対決する。その志を、私たち観客がこそって考え貫くことによって、私たちは新国立劇場を、私たち日本人のもの、そして全人類のものとするべきなのだ。

Cross Road

藤までか(俳人)

◆特集◆
◆無形の文化財保護政策の充実◆

【巻頭言】
・傑作宣言

大西珠枝(伝統文庫長)

【論文】

・国際選考委員会に出席して

林田英樹

・傑作宣言と無形文化遺産の保護

河竹登志夫

・宣言を受けて

金春惣右衛門

【解説】
・傑作宣言及び
無形文化財保護行政の概要

文化庁文化財部

●十時代のコンテツの創作・発信と著作権
実効性の確保・円滑な利用の促進について③
著作権課

●こけしの万華鏡②
水谷 修

●まちの活KOL/インシム⑦
市民をつくる美術館

平田健生

●キーマン事典「フーテンジキムメン」②
河島伸子

●文化財保存修理の社会学⑤
建造物課

建造物課

●日本の伝統美「技を守る」人々
―選定保存技術保持者編⑥―

鈴木理之(小鼓製作)

木村幸彦(大鼓製作)

松原啓治

鹿谷 敷

●文化の現場から⑥
建造物課主任調査官・清水真一

建造物課主任調査官・清水真一

編集後記

これまで創作バレエを数多く発表し、才気あふれる振付家として定評を得ている新国立劇場バレエ団の石井潤氏に取材して、日本のナショナル・バレエを世界に発信していくためには、振付家の人材養成・確保の必要性を強く感じたところである。日本のバレエ公演の現状は、日本の観客が好むロン

アのクラシック・バレエが主流であり、石井氏が言う「日本人の感覚による日本人のバレエ」を世界に発信する状況には残念ながらもなしい。アメリカでは、日本の文楽手法を取り入れた斬新な演出が高く評価された「ライオンキング」のジュリー・テイモアや、都会的な洗練さを持ち、色気ある鋭い動きの振付で二年連続トニー賞を受賞したスーザン・ストロマン振付の舞台が大ヒットしているなど、

世界では創造性あふれる優れた振付家が活躍している。日本のダンサーの技術的なレベルは海外にひけをとらないものなのだから、今後はこれらのダンサーを活かせる振付家の活躍が期待される。新国立劇場の「J-バレエ」や日本バレエ協会の「バレエフェスティバル」など、新進気鋭の日本人振付家に作品発表の機会を提供する試みは非常に評価されるものであり、このような場から、世界に発

信する日本バレエの未来が開けることを大いに期待したい。(郷)

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄や文化庁のウェブマスター宛へお寄せください。

〈ホームページアドレス〉
<http://www.bunka.go.jp/>
〈ウェブマスターメールアドレス〉
webmaster@bunka.go.jp

文化庁月報 8月号 (通巻395号)

平成13年8月25日印刷・発行

編集 - 文化庁
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2
発行 - 株式会社ぎょうせい
本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 編集 03(3571)2126
販売 03(5349)6666
URL: <http://www.gyousei.co.jp>

印刷所 - 株式会社印刷所
●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円
年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
株式会社ぎょうせい営業部広告課
電話03(5349)6657 (ダイヤルイン)
©2001 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。